

令和4年度幼稚園学校評価（出雲市立朝山幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価（点数式）	評価（記述式）	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	園の経営方針を踏まえた学級目標を作成し、学期ごとに学級経営を反省・評価し、改善策を考えて実行することができた。また、月の指導計画を週末ごとに見直し、子どもの実態に合うようにねらいを修正したり、保育を再構成をした。また、月の	3	日々の積み重ねが成果につながっており、朝山幼稚園ならではの経営がなされている。	今後も園の特色を生かした園経営や学級経営を行い、定期的に反省・評価・改善を行うことで、よりよい保育につながるよう努める。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	少人数園の長所だけでなく短所にも目を向け、子どもの育ちや課題について話し合い、こまめに支援策を変えながら保育にあたった。また、全職員で全園児を育てるという意識で全園児活動に重きを置いて取り組み、全職員で多角的に捉えたことが、一人一人に即した援助につながった。	3	少人数園の利点を生かし、一人一人に応じた丁寧な指導ができています。	今年度の自園の研究課題である「少人数園・混合学級の特性を生かした保育や援助の在り方」について、引き続き研究を深めていく。また、一人一人の課題を捉え直し、良さや強みを助長するだけでなく、足りない部分をどう補ってあげばいいか見直していきたい。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	今年度は特別な支援が必要な園児は在籍していないが、配慮が必要な園児について、職員間でその都度話し合い、連携をとりながら適切な援助ができるように努めた。園児のみでなく、保護者支援が必要な家庭もあり、関係諸機関と連携をとりつつ進めている。	3	公開日に見た遊びや作品・手作り絵本など、様々な工夫がされており、すばらしい子どもたちに成長しているのがよく分かった。また、先生たちの努力と知恵の賜物だと思う。	今後も全職員で話し合いを重ね、多角的に子どもがおかれている背景や発達を見取ることで、的確な支援につなげていく。また、次年度特別な支援が必要な園児が入園するため、今まで以上に関係諸機関や家庭と連携をとって進めていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	幼稚園の生活全てが人権・同和教育であることを常に意識しながら、保育を行った。3年間を見通して、基本的な生活習慣や心情・意欲・態度が身に付くよう継続して指導したり、必要に応じて家庭へ啓発したりしている。また、いろいろな人との関わりを通して多様な考えを認め合い、受け入れ合えるよう配慮している。	3	運動会・発表会・作品展等、どの行事も園児の日頃の活動が盛り込んであり、自分たちで作り上げていることが分かる内容で、工夫が見られた。	教師自身が様々な事象に関心をもち、見識を深めることで、人権意識を高めていきたい。また、常日頃から教師自らが人権に配慮したふるまいをすることで、子どもたちのよい手本となるよう努めると共に、保護者や地域にも啓発していく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	保育と行事がかけ離れたものにならないように努め、遊びの延長として行事があり、行事後も経験を経てさらに遊びが深まるように保育を構成した。職員同士で考えを出し合い、工夫したことにより、どの行事においても園児は満足感や達成感を得ることができ、成長が見られた。	4	小学校との交流により、子どもたちは刺激を受け、それを持ち帰って園生活に生かしており、実りのある交流となっている。	今後も行事と遊びのつながりを大事にし、相乗効果が得られるような保育を構想していく。また最適な時期や方法について吟味し、実行していく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	みなみ小学校との合同行事や縦割り班活動を継続して行い、互恵性のある活動となった。運動会で憧れの気持ちをもったり、発表会での姿を真似したりするなど、園児にとってよい刺激となった。また、昼休みの交流を再開したことで、自然なかかわりが生まれ、この積み重ねがなめらかな接続につながった。	4	幼小連携・地域との協力が積極的に行われていて素晴らしい。一部の家庭では、メディアに対する意識が不足しているようなので、今後も園から継続して働きかけてほしい。	引き続き、地域の特性を生かした幼小中連携教育を計画的・意図的に実践し、合同行事や交流活動を充実させていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	今年度は、ほとんど計画通り公開日や行事が開催でき、保護者に園生活や子どもの成長した姿を見てもらえたことが、理解と協力的な姿勢につながった。また、地域の特性を生かし、伝統文化や自然に触れる体験活動を積極的に取り入れたことで、地域の方の温かい協力を得ることもできた。未就園児教室の参加者も増えている。	3	地域の人々とのふれあいを通して、様々な経験をすることができている。	保護者のニーズに対応しながらも、幼稚園教育を理解・協力してもらえるよう、連携を図っていく。次年度は9名の入園があり、うち5名が4・5歳児で保育所からの転入園であるため、より信頼関係・協力体制が築けるよう積極的に働きかけていきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	コロナ禍が少し落ち着いたため、今年度は研修の機会が多くあり、積極的に参加することができた。また園内でも研修や教材研究を重ねて自己研鑽し、新たな気付きや発見があったことが、保育の改善につながった。	3	教職員のスキルアップは素晴らしいことだと思う。	外部講師を招いた園内研修会を継続して行ったり、園内研究や研究職員会を定期的に行ったりすることで、自己研鑽に努める。また積極的に研修ができるよう自己啓発に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	今年度は職員数減となった影響もあり、今まで以上に全職員で協力して園務にあたった。職種を問わず、自分ができることから率先して行ったり、互いにカバーし合ったりすることで、数多くある業務を協力して乗り切ることができた。	4	職員が減となり、少ない人数で負担が大きかったと思うが、協力して頑張って運営されていた。	今後も職員数が少ないことは変わらないため、今までと同様、職員同士で声をかけ合いながら、全職員で協力して園務を遂行していく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	今年度は職員だけでなく、園児も一緒に不審者対応防犯訓練を行った。日頃からコミセンや小学校と合同の避難訓練はしているが、防犯面での危機管理・安全管理について今一度見直すよい機会となった。コロナ対策については、引き続き徹底して行うことができた。	4	何が起こるか分からない時代なので、安全管理（防犯・防災）を今後も徹底してほしい。	昨今の社会情勢を鑑み、不審者対応防犯訓練を毎年行うようにする。また避難訓練についても、いろいろな場面や時間等を想定して計画し、実施する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月15日に職員で安全点検を行っている。チェックリストに沿って、危険箇所等を点検し、必要に応じて業者に連絡し、改善・管理を行っている。施設や遊具については教育施設課においても定期的な点検があり、市費で必要な修繕をしている。	4	定期的に点検していただき、ありがたい。	定期的な安全点検・管理に努め、複数の目で点検し、見落としがないようにする。また普段から危機意識をもって保育にあたり、園児の安全を第1に考えていく。

※自己評価の評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する